

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	Q21990
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代において生涯にわたり学び続ける意義と必要性を理解し、生涯学習社会を構築するための基本的な知識と態度を修得する。						
授業の概要	(1)現代世界において生涯学習がもっている意義と必要性について、ジェンダー・高齢化・ICT・グローバル化などの環境の変化も視野に入れて解説する。(2)幼年期から老年期まで続く生涯学習を支援するために、日本で整備されてきた法令や施策について、具体的な事例を紹介しつつ基本的な知識を修得する。(3)より開かれた学校や働き方改革と連携しながら、図書館や博物館などで働く社会教育施設の職員が担うべき役割について学ぶ。						
到達目標	1. 現代世界にみる生涯学習の意義と必要性について基礎知識を学生が修得する【態度・指向性】 2. 生涯学習社会を構築するための法令や施設職員の役割について学生が理解する【知識・理解】						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生涯学習の理念(1) 学校教育から社会教育へ</p> <p>第3回 生涯学習の理念(2) 個人の発達段階に応じて</p> <p>第4回 生涯学習の理念(3) 働くことによる成人の成長</p> <p>第5回 生涯学習の現場(1) 開かれた学校を通じた支援</p> <p>第6回 生涯学習の現場(2) 図書館は情報で支援する</p> <p>第7回 生涯学習の現場(3) 博物館はモノで支援する</p> <p>第8回 生涯教育の方法 ワークショップをやる</p> <p>第9回 生涯学習の環境(1) ジェンダーと共同参画社会</p> <p>第10回 生涯学習の環境(2) 高齢化とアンドラゴジー</p> <p>第11回 生涯学習の環境(3) 情報技術の進展と可能性</p> <p>第12回 生涯学習の環境(4) グローバル化と主体性</p> <p>第13回 生涯学習の機関 学校教育の目的は生涯学習</p> <p>第14回 学習成果の活用(1) 生涯学習のレポート発表</p> <p>第15回 学習成果の活用(2) 成績の説明と授業の評価</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	1. 事前に教科書の該当部分に目を通し質問を考えておく(計20時間) 2. 事後に生涯学習に関する課題を時事問題から発見する(計20時間) 3. 学期末レポートの作成と発表に楽しみながら取り組む(計20時間)						
授業方法	1. 序盤では教科書や資料を使いながら主に教員が解説する。 2. 中盤では生涯学習に使えるワークショップも取り入れる。 3. 終盤ではレポート作成とプレゼンを学生全員が実施する。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点(毎回のコメントカード、学期末のレポート発表など) 2. レポート60点(授業の範囲内で現代日本の生涯教育の課題を扱う)						
履修上の注意	1. 図書館司書、博物館学芸員の資格に必修であることに注意。 2. 授業が理解できない時は遠慮せずに積極的に質問すること。 3. 私語などで受講者に迷惑をかける場合はすぐ退席すること。 4. 原則として出席回数が2/3に満たなければ受験資格を失う。						
教科書	『新しい時代の生涯学習』、第3版、関口礼子ほか著、有斐閣アルマ、2018年、ISBN 978-4-641-22106-2						
参考書	授業で指示する。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	中山 創太					科目ナンバ-	Q22710
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。						
授業の概要	博物館学の多様な理論ならびに実習を学ぶにあたり、基礎的な知識として身に付けておくべき、博物館の定義、種類、機能、歴史などを学習する。さらに、博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。						
到達目標	<p>(1) 博物館への興味・関心を深めるとともに、博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知り、説明することができる。【態度・志向性】</p> <p>(2) 学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) 現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点を把握できる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回 博物館学とは(博物館の近況、本講義の目的)</p> <p>第2回 日本における博物館学史</p> <p>第3回 博物館の語源・定義(IGOM・ユネスコ・博物館法の規定)</p> <p>第4回 博物館の種別分類(設置者別分類、法的区分)</p> <p>第5回 博物館の基本的機能1:資料の収集</p> <p>第6回 博物館の基本的機能2:資料の調査研究</p> <p>第7回 博物館の基本的機能3:資料の活用1(展覧会ができるまで)</p> <p>第8回 博物館の基本的機能4:資料の活用2(資料の取り扱い)</p> <p>第9回 博物館の基本的機能5:資料の保存・管理</p> <p>第10回 博物館の基本的機能6:教育普及活動</p> <p>第11回 学芸員の役割(定義、役割、実態、諸外国との相違)</p> <p>第12回 欧米における博物館発達史</p> <p>第13回 日本における博物館発達史</p> <p>第14回 博物館の現状と課題(種別、地域分布、入館者数など)</p> <p>第15回 本講義のまとめ、及び期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>[授業前準備学習]</p> <p>各回授業で扱う内容を、参考図書にて当該箇所を予習し、下調べをしておく(学習時間:1時間)。</p> <p>博物館の見学、新聞や雑誌、インターネットなどで博物館に関する情報に触れる(学習時間:1時間)。</p> <p>[授業後学習]</p> <p>授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間:2時間)。</p>						
授業方法	講義:各回リアクションペーパー(講義内容に関するコメント、質問など)を作成し、コメントを付して回答する。質問がある場合は、次回講義中に適宜説明を行う。 受講生に質問する機会を設け、グループ、ペアにてディスカッションをしてもらい、その結果発表をふまえて解説を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での発表20%、レポート・小テスト20%、期末試験(持ち込み無)60%</p> <p>授業内での発表:博物館に関する興味・関心、理解度を評価する。到達目標(1)(3)に関する到達度の確認</p> <p>レポート・小テスト:博物館への自らの興味・関心の明確性・具体性を評価する。授業の内容の理解度を確認する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認</p> <p>期末試験:授業の内容の理解度を確認 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認</p> <p>課題に対するフィードバックの方法:レポート・小テストを添削後、返却して各自にフィードバックする。</p>						
履修上の注意	積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものは、原則単位認定を行わない。						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『博物館概説《改訂版》』、網干善教・高橋隆博編、関西大学出版部、ISBN978-4-87354-324-6 『博物館学Ⅰ:博物館概論*博物館資料論』、大堀哲・水嶋英治編著、学文社、ISBN978-4-7620-2284-5 						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館教育論						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ-	Q22760
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館で行われる教育活動の基本理念、目的、方法を、実践事例を通して考察する。						
授業の概要	博物館では、展示、講演会や講座、ワークショップ、イベント事業、出版、見学会、博学連携など、様々な教育活動を通して学びの場を提供している。様々な実践事例を通して、博物館教育の基盤となる理論、教育の目的や方法を学ぶことで、博物館の教育的役割について考察する。						
到達目標	(1) 博物館教育に関する基本理念、目的、実践事例を学ぶことによって、博物館が実践している多様な教育活動の趣旨と内容を理解することができる。【知識・理解】 (2) 博物館で実施する教育活動やイベントなどに関して、教育実践としての観点から企画・立案する応用力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨンー学校教育と社会教育ー 第2回 博物館教育の意義と歴史 第3回 生涯学習と博物館教育 第4回 博物館教育の目的と方法 第5回 博物館の利用実態と利用者の博物館体験 第6回 博物館における学びの特性ーモノを通しての学びー 第7回 博物館における教育活動の手法1ーハンズ・オンと体験学習、アウトリーチサービスー 第8回 博物館における教育活動の手法2ー講座、講演会、ギャラリートークー 第9回 博物館における教育活動の手法3ーワークショップとレクリエーションイベントー 第10回 博物館における教育活動の手法4ー博学連携、子ども向け講座、博物館実習、インターン研修ー 第11回 博物館における教育活動の手法5ー生涯学習、レファレンスサービス、ボランティア活動ー 第12回 博物館における教育活動の手法6ー情報提供、出版事業、資料の特別利用、公式SNSによる情報発信ー 第13回 博物館における教育活動の手法7ーミュージアムグッズ、ショップ、カフェ、レストラン 第14回 博物館教育担当学芸員の職務と実態 第15回 博物館教育論に関するまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。（学習時間：2時間） なお、博物館に関連した新聞記事やテレビの特別番組、博物館の公式SNSなどを读んだり視聴したりすること。コロナ禍の推移次第ではあるものの、近隣の博物館・美術館で開催される平常展や特別展などを観覧することも、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。コロナ禍の推移によって対面授業、遠隔授業のいずれになっても、manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料などに対する対応などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%：毎回の小テストや出題した課題に対する、内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1) 出席が授業回数の3分の2以上になるように心がけること。 (2) 配布したレジメなどは可能ならばファイリングし、毎回の授業に持参すること。 (3) 学芸員養成課程においては、「博物館実習」を除く必須科目の単位取得を3年次までに全て終え、そのトータルのGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので、特に留意して授業に取り組むこと。 (4) コロナ禍の推移次第ではあるが、近隣の博物館等の展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	なし。なお、各回の授業ごとにレジメや資料類、展覧会チラシなどを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学IIー博物館展示論*博物館教育論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2012) ISBN:978-4-7620-2285-2 『博物館教育論』黒沢浩著 講談社(2015) ISBN:978-4-06-156542-5 『博物館教育論 新しい博物館教育を描きだす』小笠原喜康ほか編ぎょうせい(2012) ISBN:978-4-324-09246-0						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館経営論						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ-	Q23720
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館の種別・組織・活動に対する望ましい管理・運営のあり方を理解し、経営に関する基礎的な知識を養う。						
授業の概要	近年の博物館を取り巻く状況をふまえながら、博物館の経営に関して、組織の体制や日常的な運営の多様性、博物館の使命や事業計画の明文化、自己評価と外部評価、市民サービスの様々な実施事例などについて学習する。経営基盤・経営システム（国立・公立・私立）などの課題についても検討し、博物館が課題解決のためにさまざまな相手との連携活動に取り組み、社会環境の変化にも対応していることを紹介する。						
到達目標	(1)幅広い分野の博物館での事例を通じて、博物館の組織や活動のあり方などが理解でき、博物館経営に関する基礎的な理念と知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2)市民にとってどのような博物館が望ましいのかという、市民目線から博物館のあるべき未来像に関する自身の考えをまとめることができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インタロダクションーミュージアムマネジメントの意義ー 第2回 博物館の法体系と経営基盤(行財政、施設と設備、組織と人材) 第3回 博物館の経営形態1ー独立行政法人、公立博物館、指定管理者制度ー 第4回 博物館の経営形態2ーPFI、私立博物館、公益財団法人化ー 第5回 博物館の使命と事業計画、内部評価と外部評価 第6回 博物館の倫理規定と博物館職員の行動規範 第7回 博物館における広報と営業の実際 第8回 博物館における集客と「文化観光」への対応 第9回 博物館のリスクマネジメントと危機管理 第10回 歴史・民俗(族)系博物館、文化・芸術系博物館の運営の特徴について 第11回 理学・工学系博物館、育成系博物館の運営の特徴について 第12回 総合博物館、専門博物館、大学付属博物館の運営の特徴について 第13回 利用者サービスと市民参画ー友の会、ボランティアー 第14回 他の博物館や民間機関などとの連携、地域社会における博物館の意義 第15回 博物館経営論のまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、博物館に関連した新聞記事やテレビの特別番組、博物館の公式SNSなどを读んだり視聴したりすること。コロナ禍の推移次第ではあるが、近隣の博物館・美術館で開催される平常展や特別展などを観覧することも、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。コロナ禍の推移によって対面授業、遠隔授業のいずれになっても、manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。 また、授業内容に合わせて開催中の展覧会チラシの配布や、博物館に関連する新聞記事などを紹介し、授業外における学習として自主的に博物館見学が出来るよう、情報提供を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料などに対する対応などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%：毎回の小テストや出題した課題に対する、内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数の3分の2以上になるように心がけること。 (2)配布したレジメなどは、可能ならば毎回の授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程においては、「博物館実習」を除く必須科目の単位取得を3年次までに全て終え、そのトータルのGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので、特に留意して授業に取り組むこと。 (4)コロナ禍の推移次第ではあるが、近隣の博物館等の茶の湯などの展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	なし。各回の授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学IIIー博物館情報・メディア論*博物館経営論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2012) ISBN:978-4-762-02286-2 『博物館経営論』白澤恵一著 青山社(2011) ISBN:978-4-883-59296-8 『観光資源としての博物館』中村浩・青木豊編 芙蓉書房出版(2016) ISBN:978-4-829-50677-6						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料保存論						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ	Q23740
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料や文化財、自然環境の保全と保護、修理と修復に関する理論と方法論、実践事例を概観する。						
授業の概要	博物館資料保存論では、実際に博物館資料や文化財などを扱う立場になった時にどのような心構えでそれらと向き合うべきかを、そして博物館資料の保全・保存に関する諸条件や被害への対策、収蔵・展示における問題点、修理・修復などの方法論などを科学的な観点から学習する。あわせて、博物館がはたすべき地域の文化財に対する役割と自然環境の保護活動に関しても考察する。						
到達目標	(1)博物館における様々な博物館資料の収蔵環境や展示環境を科学的に捉え、修復・修理に関する実務的な技能を理解し、博物館資料を良好な状態で後世に保存するための基本的な知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2)博物館資料の保全や、自然環境の保護、地域における文化財保護の役割などに関する理解を深めて、「保存」に対する考え方を日常生活にも応用することができるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 イントロダクションー資料保存の意義についてー 第2回 文化財保護の展開と博物館の成立 第3回 博物館資料を保存する諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気など) 第4回 博物館資料の状態調査と現状把握、現状保存と修理・修復 第5回 博物館資料の取扱いと、梱包・輸送 第6回 収蔵環境と展示環境における保存条件 第7回 伝統的な保存方法 第8回 生物被害とIPM(総合的有害生物管理) 第9回 博物館資料の修理・修復1(東洋絵画、書跡、油彩画、歴史資料など) 第10回 博物館資料の修理・修復2(考古資料、民俗(族)資料、工芸、彫刻など) 第11回 博物館資料の修理・修復3(自然史資料、機械類、育成動植物など) 第12回 災害の防止と対策・復興(地震、水害、火災、盗難など) 第13回 地域資源と文化財の保存と活用(エコミュージアム、景観、歴史的環境など) 第14回 自然環境の保護ー生物多様性、種の保存と外来種問題ー 第15回 博物館資料保存論のまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間:2時間) 授業後学習:manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間:2時間) なお、博物館に関連した新聞記事やテレビの特別番組、博物館の公式SNSなどを読んだり視聴したりすること。コロナ禍の推移次第ではあるものの、近隣の博物館・美術館で開催される平常展や特別展などを観覧することも、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。「博物館資料の取扱いと梱包・輸送」等の授業回では、実際の美術作品を用いて取扱いや梱包の実践を行う。 コロナ禍の推移によって対面授業、遠隔授業のいずれになっても、manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。						
評価基準と評価方法	期末試験70%:授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%:授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料などに対する対応などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%:毎回の小テストや出題した課題に対する、内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【態度・志向性】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数の3分の2以上になるように心がけること。 (2)配布したレジメなどは可能ならばファイリングし、毎回の授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程においては、「博物館実習」を除く必須科目の単位取得を3年次までに全て終え、そのトータルのGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので、特に留意して授業に取り組むこと。 (4)コロナ禍の推移次第ではあるが、近隣の博物館等の展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	なし。なお、各回の授業ごとにレジメや資料類、展覧会チラシなどを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学Ⅳー博物館資料保存論*博物館実習論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2013) ISBN:978-4-762-02287-6 『博物館資料保存論』石崎武志著 講談社(2012) ISBN:978-4-06-156503-6 『文化財保存環境学(第2版)』三浦定俊ほか著 朝倉書店(2016) ISBN:978-4-2541-0275-8 『文化財の保存環境』東京文化財研究所編 中央公論美術出版(2011) ISBN:978-4-8055-0648-6 『文化財保存学入門 感じとる智慧・つながる記憶』秋田貴廣著 丸善出版(2012) ISBN:978-4-8634-5119-3						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料論						
担当教員	三好 俊					科目ナンバ-	Q23730
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料の種類と特徴および館活動の最も基礎となる資料の収集、整理保存、調査研究等について概観する。						
授業の概要	博物館資料に関する基礎的な理論と方法について概観する。資料の収集、資料保存、調査研究、展示等の活用について、主として人文系博物館の資料に即して説明するが、理学・工学系博物館（含 育成系博物館）の資料に関しては、必要に応じて言及していく。資料の活用、公開、調査研究が市民と博物館を結ぶ重要な活動であることについて十分な理解を促す。						
到達目標	<p>(1) 博物館資料とはどのようなものか、分野・館種の違いによる資料の特徴を具体的に説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 資料の収集・整理保存・調査研究等の理論と具体的な方策について説明できる。【汎用的技能】</p> <p>(3) 調査研究活動とその公開の意義について、博物館の社会的役割に則して説明できる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回 博物館資料の概念と意義</p> <p>第2回 人文系博物館資料の分類、関連法規</p> <p>第3回 人文系博物館資料の種類 (1) 美術資料の種類と特徴</p> <p>第4回 人文系博物館資料の種類 (2) 考古・歴史資料の種類と特徴</p> <p>第5回 人文系博物館資料の種類 (3) 民俗資料、その他の資料の種類と特徴</p> <p>第6回 理学・工学系博物館（含 育成系博物館）資料の種類と特徴</p> <p>第7回 博物館資料の収集—理念と方法 (1) 収集方針とコレクション、各館の方針と特徴</p> <p>第8回 博物館資料の収集—理念と方法 (2) 収集（寄贈、寄託、購入、作製等）の実際</p> <p>第9回 博物館資料の分類・整理 (1) 受入、登録の方法と実際</p> <p>第10回 博物館資料の分類・整理 (2) 分類と目録の特徴</p> <p>第11回 博物館資料の分類・整理 (3) 歴史資料の調査と整理</p> <p>第12回 博物館資料の分類・整理 (4) 美術資料、その他の資料の調査と整理</p> <p>第13回 博物館資料の保存・修復・公開</p> <p>第14回 調査研究の意義と内容</p> <p>第15回 成果の公開と方法</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う内容を、参考図書にて該当箇所を予習し、下調べをしておく（学習時間：1時間）。博物館の見学、関連書籍、雑誌や新聞、インターネットなどで博物館資料に関する情報に触れる（学習時間：1時間）。</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理する。授業で得た知識や問題意識を活かして博物館や展覧会の見学、博物館資料に関する情報収集を行い、新たな課題を見つけること（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	<p>講義：各回リアクションペーパー（講義内容に関するコメント、質問等）を作成し、回答する。</p> <p>博物館資料の収集や公開の在り方などのトピックについてディスカッションを行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点（40%）：授業中の質疑応答、発表、授業態度、リアクションペーパーの内容などにより評価する。到達目標（1）（2）（3）の到達度の確認。</p> <p>レポート・小テスト（60%）：テーマごとに小テストまたはレポートの提出を求めて評価する。到達目標（1）（2）（3）の到達度の確認。</p> <p>なお、リアクションペーパー、レポートなどは適宜授業で取り上げ、フィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>授業の出席は原則として、博物館や展覧会の自主的な見学を重視する。また、日頃より博物館資料に関する情報収集をしておくことが望ましい。</p> <p>教科書にかわる配布プリントは授業ごとに出席者に配布する。</p>						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	<p>米田文孝、森隆男、山口卓也編著『新課程博物館学ハンドブック 1』（関西大学出版部、2015年）ISBN9784873546155</p> <p>全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012年）ISBN9784829505519</p>						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館情報・メディア論						
担当教員	藤田 淳					科目ナンバ-	Q22770
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における情報とメディア（媒体）に関する基礎的な知識と技能を養った上で、その応用力を身に着ける。						
授業の概要	博物館では情報発信のために様々なメディアを利用するが、ICT（情報コミュニケーション技術）の発達により、利用可能なメディアは多岐に渡っており、また技術の刷新も日進月歩である。一方で博物館自体も、収蔵品の研究や展示などを通して社会に情報を発信するメディアそのものであるともいえる。授業ではこの二つの視点から、博物館における情報発信の現状と課題について学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題について理解できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 博物館資料のドキュメンテーションやデータベース、デジタルアーカイブズについて理解し活用できる。【汎用的技能】</p> <p>(3) 情報の管理・公開に必要なスキルや法令に関する基礎的な知識が習得できる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回 博物館における情報の意義</p> <p>第2回 メディアとしての博物館</p> <p>第3回 博物館における情報発信 紙媒体とインターネット</p> <p>第4回 博物館におけるメディア・リテラシー</p> <p>資料写真における撮影技術の基本とデジタル画像の修正と活用</p> <p>第5回 資料のドキュメンテーションとデジタルアーカイブズⅠ</p> <p>資料のドキュメンテーション</p> <p>第6回 資料のドキュメンテーションとデジタルアーカイブズⅡ</p> <p>資料のアーカイブズ</p> <p>第7回 資料のデータベース化と公開</p> <p>第8回 ICT社会における博物館連携</p> <p>第9回 メディアとしての博物館の視点でみる兵庫県立考古博物館</p> <p>※日曜日に3時間（通常の授業時間×2）かけて学外見学・研修を実施予定</p> <p>第10回 博物館と知的財産権</p> <p>第11回 博物館における個人情報の保護</p> <p>第12回 様々な博物館における情報・メディア</p> <p>第13回 コロナ下における博物館の情報発信</p> <p>第14回 博物館とユニバーサルデザイン、アクセシビリティ</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：日頃から月1回程度、身近にある博物館を訪れ、各施設の持つ博物館資料の公開方法などを展示手法を含めて見学する習慣をつけるとともに、館のホームページを閲覧し、情報発信手法を確認しておくこと。＜学習時間：2時間＞</p> <p>授業後学習：配付資料などの教材を再読し、授業内容を見直し、疑問点などをピックアップすること。＜学習時間：2時間＞</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>講義は、各回授業計画に基づいた講義形式。ただし、講義テーマによっては、小グループでのディスカッションを随時おこなって、課題の解決方法を検討してゆく。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験40%、レポート40%、平常点20%。</p> <p>試験：授業で扱った講義内容に関する理解度を評価する。到達目標(1)～(3)に関する到達度の確認。</p> <p>レポート：出題した課題に対する、内容の整理、コメントにより評価する。到達目標(1)～(3)に関する到達度の確認。</p> <p>平常点：授業への取り組みを総合的に評価する。到達目標(1)～(3)に関する到達度の確認。</p> <p>なお、試験・レポートに関する質問は、教員との連絡方法に記す方法の他、授業の前後でも受け付ける</p>						
履修上の注意	<p>履修上の注意</p> <p>パソコンなど情報機器の基本的な操作・利用方法について理解していることが望ましい。</p> <p>出席が授業回数の3分の2以上になるように心がけること。</p> <p>学外見学研修にかかる交通費や入館料、および、近隣の博物館を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出した際の交通費や入館料等は受講生の自己負担である。</p>						
教科書	プリント配布						
参考書	<p>『博物館学Ⅲ－博物館情報・メディア論*博物館経営論』（新博物館学教科書3）、第1版、大堀哲・水嶋英治、学文社、ISBN:978-4-7620-2286-9</p> <p>『博物館情報・メディア論』、第1版、稲村哲也・近藤智嗣、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-31863-4</p>						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ-	Q24780
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	3.0
授業のテーマ	学内での講義・実習や学外の館園実習によって、博物館や学芸員の業務の実態を理解し、実践的能力を養う。						
授業の概要	博物館実習は、夏期の学外の館園実習を中心に、その事前事後に学内で行う、博物館資料の取扱い・梱包・調査方法や展覧会の企画・制作に関する技能などの講義と演習、各地の博物館の建物・設備や開催している展覧会の実際を観察する見学実習(日曜日)で構成される。 なお、夏期の学外の館園実習は、実習先の各博物館に勤務する学芸員の指導のもとに、実際の学芸業務の一端を体験することになるが、このシラバスには学外の館園実習の内容は含まれていない。						
到達目標	(1)学内外の授業を通じて、博物館の建物・設備と学芸員の多様な業務の実態を目の当たりにすることで、博物館における学芸員の今日的な課題を理解することができる。【知識・理解】 (2)博物館の学芸員の実務や技能を学習し体験することで、学芸員になるための実践的な能力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>本授業は3年生までの単位修得条件による受講許可制の授業である。登録を許可された学生は、4月の第1回目の授業に出席し、授業日程と授業の具体的内容、履修にかかる留意事項などの説明を必ず履修すること。</p> <p>第1回(4/14) オリエンテーションー学内実習と学外実習についてー 第2回(4/23) 博物館・美術館の見学実習1(日曜日) 第3回(4/28) 博物館資料の種類と部分名称、写真撮影の基礎 第4回(5/26) 学芸員の仕事1(掛軸・卷子・額などの取扱いと調査方法) 第5回(6/4) 博物館・美術館の見学実習2(日曜日) 第6回(6/16) 学芸員の仕事2(屏風・画帖・冊子などの取扱いと調査方法) 第7回(7/7) 学芸員の仕事3(彫刻・工芸品の取扱いと調査方法、展示計画の立て方) 第8回(7/14) 学芸員の仕事4(考古資料の取扱いと調査方法)、夏期の学外館園実習の準備と注意事項</p> <p>*夏期休暇中などに学外の館園実習(6日程度)がある。館園と日程の確定は6月初旬頃。</p> <p>第9回(10/6) 学外館園実習の実践報告と自己評価について(各自5分程度の報告) 第10回(10/20) 学芸員の仕事5(ポスター・チラシ、題箋・一点解説の作成) 第11回(11/10) 学芸員の仕事6(作品展示と教育普及の実践①) <松蔭祭での実施の予定あり> 第12回(11/26) 博物館・美術館の見学実習3(日曜日) 第13回(12/3) 博物館・美術館の見学実習4(日曜日) 第14回(12/15) 学芸員の仕事7(作品展示と教育普及の実践②) <日本語日本文化学科の展示イベントでの実践の予定あり> 第15回(1/26) 学芸員養成課程の総括、および試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習:図書館にある下記の参考書などを用いて、各回授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間:2時間) 授業後学習:manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間:2時間) なお、博物館に関連した新聞記事やテレビの特別番組、博物館の公式SNSなどを读んだり視聴したりすること、コロナ禍の推移次第ではあるものの、近隣の博物館・美術館で開催される平常展や特別展を観覧することなども、授業外の学習における大切な取り組みである。</p>						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく、学内での講義と演習、学外での見学実習(日曜日、通年で4回の予定)を行い、加えて学外の博物館・美術館などでの夏期の館園実習(5~6日程度)をそれぞれの博物館の学芸員の指導のもとに実施する。また、松蔭祭(おきしお号)の展示計画案をmanabaのプロジェクト機能を利用してグループで作成する予定である。授業では技能の習得のための実技演習も行うので出席を重要視する。						
評価基準と評価方法	<p>後期期末試験50%:講義や実習の内容に関する理解度、設問に対する自身の見解などに関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点30%:実習に取り組む積極性、質疑応答への意欲などに関して、総合的に判断して評価する。 レポート・課題製作20%:レポート課題、見学実習によるコメントや課題制作の完成度などに関して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。</p>						
履修上の注意	<p>(1)本授業は、学芸員養成課程の4年間の学習の総まとめの意味をもつ科目であり、原則として学芸員養成課程の必修科目において、本科目を除く全ての単位を3年次までに取得し、一定の学修基準等を満たした学生のみ履修が認められる受講許可制の授業である。 (2)日曜日の見学実習4回を含む通年15回3単位の変則的な授業であり、夏期の学外の館園実習もあるために、授業の日程や内容にはシラバス作成時では未定の部分もある。 (3)技能演習を伴う授業なので、出席が授業回数5分の4以上になるように特に留意すること。また、作品の取扱い実技の習得が不十分と思った時には、共同研究室にて自主的に練習を行うこと。 (4)配布したレジメなどは、可能ならばファイリングし、毎回の授業に持参すること。 (5)学外での見学実習(日曜日)は、前・後期あわせて4回ほど実施する予定である。ポータルやmanabaなどでの連絡に注意するとともに、見学実習に伴う交通費や入館料等は受講生の自己負担である。 (6)夏期の学外の館園実習は5~6日程度の予定であり、第1回目の授業で詳細を説明するが、費用などについては、履修ガイドに記載の通りである。</p>						

履修上の注意	(7)松蔭祭（おきしお号）の出陳や日本語日本文化学科の展示イベントは、展示計画の作成や作品展示、教育普及活動の実践の場であるので、展示準備や撤収作業などを授業の一環として行う場合がある。
教科書	なし。なお、各回の授業ごとにレジメや資料類を適宜配布する。
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学Ⅳ－博物館資料保存論*博物館実習論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2013) ISBN:978-4-7620-2287-6 『博物館資料取扱いガイドブック－文化財、美術品等梱包・輸送の手引き－』（公財）日本博物館協会編 ぎょうせい(2016) ISBN:978-4-324-10159-9 『日本美術図解事典－絵画・書・彫刻・陶磁・漆工－』守屋正彦ほか監修 東京美術(2011) ISBN:978-4-808-70939-6

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館展示論						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ-	Q23750
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料の展示と展覧会の開催に関する理論と実践事例を学習し、基本的な知識と技能を概観する。						
授業の概要	博物館展示論では、学芸員がどのような意図をもって博物館資料を選択し、展覧会を通して観覧者に対してどのような方法でコミュニケーションを図っていくべきなのかを学ぶ。歴史資料・民俗(族)資料・考古資料・美術作品・自然史資料などの幅広い分野にわたる展示の実践事例を通じて、展示に関する理論や歴史、作品解説などの教育的配慮、展示手法や技術に関する基礎的な知識を習得して、博物館における最良な展示と展覧会のあり方を考察する。						
到達目標	(1)博物館資料の展示の歴史、展覧会の企画と運営、展示による教育活動などに関する理論や知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2)展示の諸形態、展示方法に関する知識や技術を習得することで、日常生活や仕事における展示という行為に応用することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクションー博物館における展示のあれこれー 第2回 博物館における展示の意義ー社会的役割、研究成果・コミュニケーションとしての展示ー 第3回 博物館における展示の歴史ー博物館資料の収集と展示の変遷ー 第4回 博物館建築の歴史と展示に関する諸機能 第5回 博物館展示の形態・方法と展示条件 第6回 展示技術と照明技術のいろいろ 第7回 展示の解説1ー題箋と列品解説、解説パネル類、ギャラリートークとイヤホンガイドー 第8回 展示の解説2 ーポスター、チラシ、PR誌、出品目録、展示リーフレット、展覧会図録、博物館の公式SNSー 第9回 平常展と特別展の諸形態と企画・制作・実施・運営の流れ 第10回 平常展の諸形態1ー歴史・民俗(族)系博物館の展示ー 第11回 平常展の諸形態2ー文化・芸術系博物館の展示ー 第12回 平常展の諸形態3ー理学・工学系博物館、育成系博物館の展示ー 第13回 展覧会の評価・改善・更新 第14回 ウィズコロナの状況下における展覧会の課題と展望 第15回 博物館展示論のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間: 2時間) 授業後学習: manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間: 2時間) なお、博物館に関連した新聞記事やテレビの特別番組、博物館の公式SNSなどを読んだり視聴したりすること。コロナ禍の推移次第ではあるものの、近隣の博物館・美術館で開催される平常展や特別展などを観覧することも、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。コロナ禍の推移によって対面授業、遠隔授業のいずれになっても、manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。また、松蔭祭での「おきしお夢はこぼ号」や日本語日本文化学科の展示イベントなどにて、習得した知識と技術を実践するため、展示作業や題箋・パネル作成などを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%: 授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%: 授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料などに対する対応などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%: 毎回の小テストや出題した課題に対する、内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数数の3分の2以上になるように心がけること。 (2)配布したレジメなどは、可能ならばファイリングし、毎回の授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程においては、「博物館実習」を除く必須科目の単位取得を3年次までに全て終え、そのトータルのGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので、特に留意して授業に取り組むこと。 (4)コロナ禍の推移次第ではあるが、近隣の博物館等の展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。 (5)松蔭祭での「おきしお夢はこぼ号」や日本語日本文化学科の展示イベントなどにて、展示作業や題箋・パネル作成の実践を行う場合がある。						
教科書	なし。なお、各回の授業ごとにレジメや資料類を適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学IIー博物館展示論・博物館教育論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2012) ISBN:978-4-7620-2285-2 『博物館展示論』黒沢浩著 講談社〔2014〕 ISBN:978-4-06-156531-9 『学芸員のための展示照明ハンドブック』藤原工著 講談社〔2014〕 ISBN:978-4-06-156521-0						